



フリーソフトを うまく使って IT 導入コストを削減

請求、支払など限られた業務だけを
IT化するならフリーソフトで
コスト削減可能

CASE 26

フリーソフトによる請求・支払システム

事例企業は、中小トラック事業者向けのフリーソフトを活用して低コストでシステム化を図ることができた。自社に必要な最低限の業務を IT 化して、手作業の事務処理と組み合わせて十数年にわたり確実な事務処理を行っている。高額なシステムを入れて一部しか活用しないより、IT 活用によって改善できる業務だけを IT 化することで、十分満足のいくシステム化が図られている事例。



課題・ニーズ

■ システムが古くなり新しいものに切り替えたい。

現在のシステムは古くてリースも切れている。長く使ってきたが、時々障害もあり、ちょっとした保守でも費用がかかってしまう。早く新しいシステムを導入したい。

■ とにかく費用を安くしたい。

仕事が毎年増えているような時代ではないので、とにかくコストを抑えて、安い費用で導入したい。

■ 簡単なソフトでないと社員が使えない。

以前のシステムは、能力の1割も使っていないと思える。あれこれできると言われたが、毎月の請求で精一杯。きちんとした請求書が作れさえすれば良いので、簡単な操作でできるようなシステムが欲しい。

会社 情報

営業所数：1、車両台数：45台

4t車4、3t車5、2t車6、ワンボックス10、その他20

薬品、精密機械、部品



導入効果

事例企業はとにかくコスト優先を考えて、無償のソフトウェアを活用することを考えた。また、小規模とはいえ45台の車両の日々の運行実績を正しく入力して請求書に反映させるためには、かなりの事務量になる。パソコンに詳しい社員がいる訳ではないので、できるだけ現場がわかりやすく間違いが起きないように、手作業を残しながら日々の運行実績、月末の請求書発行がきちんとできるということだけに注力して成果を上げることができた。

■ **低コストでのシステム導入ができた。**

フリーソフト（無償のソフトウェア）の運輸業総合管理システムを導入することで、パソコンの購入費用だけで済んだ。

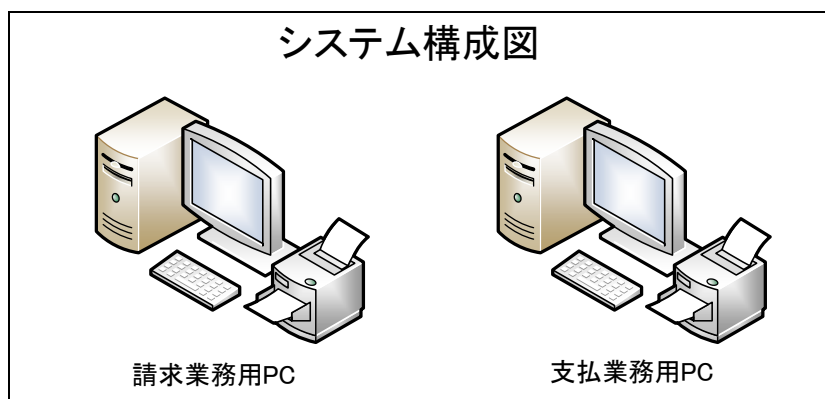
■ **請求業務と支払業務が同時に使用できるようになった。**

フリーソフトであるため、請求業務用のパソコンと支払業務用のパソコンに同じソフトを導入し、並行して業務を行うことができるようになった。



システム概要

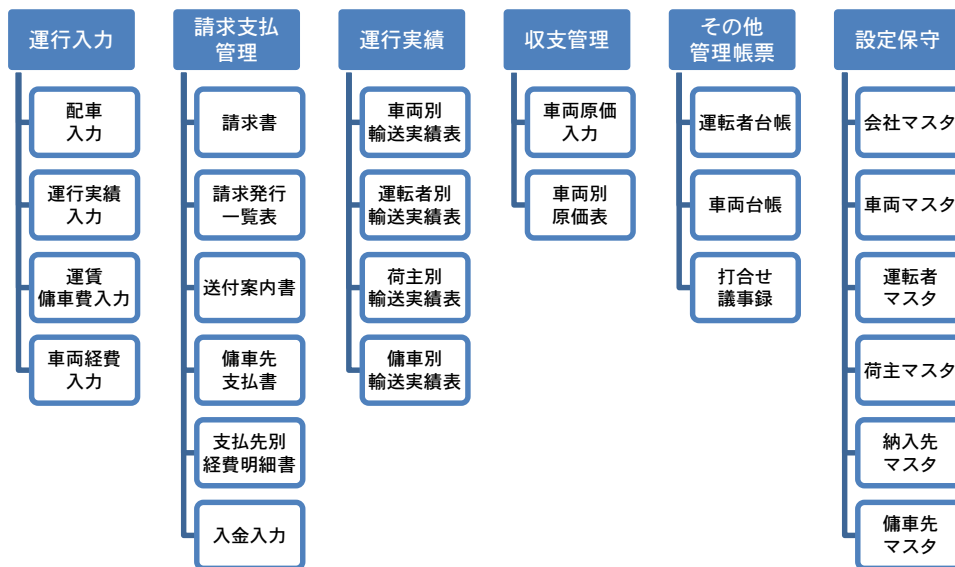
フリーソフトは、1台でのPCの利用しかできないが、請求業務は日々の入力時間がかかり、支払業務で使う時間がとれないため、2台のPCを購入し、それぞれに同じフリーソフトを導入して、2つの業務を別々のPCで行うようにした。



■ **フリーソフトの運輸総合管理システムの機能一覧**

中小トラック事業者向けのソフトウェアであり、基本機能として請求書を正しく発行するための機能が盛り込まれている。また、備車先への支払管理や経費関係の支払管理、輸送実績管理、車両別原価表、各種台帳が用意されている。

フリーソフトの運輸総合管理システムメニュー



■ 請求業務の流れ

実際の請求業務の流れと、作成する伝票、入力画面、帳票発行の流れを概説する。

- 1) 配送依頼：荷主から FAX、電話などで依頼を受ける。
- 2) 配車手配：着日別に配車表を手書きで記入し、配車する。

伝票	得意先	業務員	車両番号	配送先	備考
	山田工業	田中	8876	テフ工業	
	石川産業	石川	3456	田代精密	

- 3) 配送実施：ドライバーが配送後、乗務日報を記載する。
- 4) 納品書作成：乗務日報から納品書を手書き作成する。

山田工業 殿		伝票 No	8356
		受領書発行日	年 月 日
積込年月日	25年3月21日	業務員	田中
荷降年月日	年 月 日	配達先	テフ工業
品名		運賃	5,000
作業時間	作業時間	作業金額	
		その他	
運転手		道路料	
車種番号		合計	
備考			

5) 実績入力：納品書から配車実績入力を行う。

日報運番	開始日時	平成25年9月21日(木)	8:00	拘束時間	運転者...	車両...	運車先...
75	終了	平成25年9月21日(木)	18:00	8:00	T01	田中正	9678 新宿111番9678 0000 自社運行

全項目	配車	実績	運賃	日報追加項目	経費						
配車	荷主...	発地...	着地...	商品...	重量	単位					
実績	出庫キロ	帰庫キロ	走行キロ	実車キロ	運転時間	高速(請求用)	標準下私	標準高速代	標準(請求用)	標準(社内用)	削除
運賃	運賃単価	数量	割増	合計運賃	高速(請求用)	標準下私	標準高速代	標準(請求用)	標準(社内用)	削除	
y001	山田工業(株)	東京都	横浜市	機械部品	2,000	kg					
	58,492	58,601	189	150	8						
	50,000	1		50,000							

明細件数: 1件 詳細画面

6) 請求書発行：締日に請求書を発行し、内容確認する。

平成25年9月31日

〒123-1234
東京都新宿区西新宿1-2-3
山田工業(株) 御中

〒123-0004 東京都西新宿1-5-1
全運送株式会社
電話:123-456789
FAX:123-456789
口座番号: 郵便銀行 郵便支店 普通123456789

御 請 求 書

自:平成25年 9月 1日
至:平成25年 9月31日

合計運賃	消費税	高速料	当月請求額	前月請求残高	請求額
50,000	2,500		52,500		52,500

日付	車両	運転手	発着地	商品	重量	運賃単価	数量	割増運賃	運賃	高速料	備考
H25/09/21	新宿111番9678	田中正	東京都-横浜市	機械部品	2,000kg	50,000	1		50,000		
件数1件									50,000		

事例企業では、配車担当者が作成した「配車表」を基に請求業務担当者が「納品書」を手作業で作成し、入力原票としてシステムに入力している。請求時には、再度「配車表」のデータがすべて「納品書」に起票しているか、間違いがないかを確認して、請求書を作成している。手作業と組み合わせて、必要最低限のシステム活用を行っているため、障害などはほとんど発生していない。



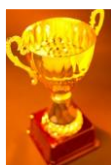
コスト・期間

■ コスト

項目	費用
I. ハードウェア パソコン 2 台、プリンタ 2 台	15 万円
II. ソフトウェア フリーソフト運輸業総合管理システム	0 円
合計	15 万円
III. その他の費用 保守料(月額)	0 円

■ 導入期間

導入フェーズ	期間
I. 導入準備とマスター設定	1 ヶ月
II. 請求業務及び支払業務運用	2 カ月
合計	3 ヶ月



成功要因

■ 必要最低限の請求業務に絞ってシステム化。

運輸業総合管理システムの業者は、パッケージソフトウェアの様々な機能を説明し、何でもできるような印象を受けるが、事例企業では、かつて高額なオフコンを導入しても使いこなすことができず、宝の持ち腐れのような状態だったため、システムに過剰な期待を持たずに、最低限請求書だけ作成できれば良いという割り切った考えで導入をした。

■ データの基になる配車表や運転日報はきちんと作成されている。

日々の基本的な事務処理については、手作業できちんと作成され、万が一の場合は、請求書も手作業で作成できるように、納品書を作成し、入力のための書類を正確に作成している。特に、ドライバーが記入する運転日報を正確に書く習慣ができていたため、参照したり確認したりすることが容易にできる。システムが思うよ

うに動かないことがあってもいつでも手作業に戻ることができる自信があるため、安心してシステムを活用できている。

■ 請求業務と支払業務のシステムを別々に利用している。

通常パッケージソフトウェアの場合は、パソコン1台ですべての業務ができるようにデータが関係している。しかし、事例企業は車両台数が45台で日々の伝票を入力するためにはかなりの時間を要するため、支払業務も1台のパソコンでやるには、利用可能時間が少なかった。そのため、支払業務を別のパソコンを使って処理することで、同時に2台のパソコンでいつでも利用できるようになった。フリーソフトならではの使い方である。

■ 手書き処理を残す。

システムとしては、売掛金の入金管理もできるが、売掛金は経理の業務であり、月次単位の処理でもあるため、入金管理をシステム化せず、経理担当者が手作業で売掛金台帳を作って入金管理している。荷主件数がそれほど多くないため、むしろ台帳が手書きである方が問い合わせのためや回収確認の事務には都合が良い。卸売業のように細かな商品が何千点もあるような処理ではないため、手作業の強みが生かせる。

■ フリーソフトの開発元がしっかりしていること

フリーソフトは、いくつかのタイプに分かれる。個人が趣味で開発したソフトウェアをフリーで提供するタイプ。有償のソフトウェアを販売している会社が、最も基本的な機能だけを無償で提供することで、有償のソフトウェアを導入するきっかけとして提供するタイプ。そして、主に会員組織を持つ団体が会員のために開発して（または一括購入して）提供するタイプ。等である。この事例の場合は、社団法人京都府トラック協会が独自開発したフリーソフトである。京都府トラック協会は、会員サービスの一環としてこのソフトウェアを開発して提供しており、個別のサポートは行っていないが、メールでの問い合わせや質問に対する回答を行っている。



失敗のリスク

■ システムですべて解決しようとする。

せっかくシステムを導入するのだから、ある機能をすべて使おうとしてしまうことがある。パッケージソフトウェアは、元々何件かの顧客のオリジナルのシステムを開発した後、共通に処理できる部分を取り出し、できるだけ多くのユーザーに合うように最大公約数の機能を装備するようにしてある。中小トラック事業は、荷主の業務によって様々な形態があり、すべてを包含するような仕様を作ることは困難である。すべてを使おうとすれば、自社の業務に合わないシステムもあり、操作が面倒になることがある。

■ 手作業の事務処理がいい加減なままシステムを導入する。

規模の大小にかかわらず、手作業の事務処理がきちんとなされていない限り、システム化したからきちんとしてできるということなどあり得ない。特に、中小トラック事業者の場合、配車表、日報など慣れた人でないと何が書かれているかわからないような書類を多く見受ける。人が少ないため、それぞれの担当者は自分だけがわかれば良いと考えがちであり、その担当者がやめたりすると、途端に事務処理が滞ってしまう。きちんと手作業がなされていない企業がいくらシステムを導入したところで、システムがうまく動くはずはない。